





緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲
纂セル所ニシテ毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和
ノ統計書ヲ出スニ至レリ本書編ヲ分ツ
四其ノ一ヲ土地戸口等、其ノ二ヲ學事、其
ヲ産業、其ノ四ヲ警察衛生工場等トス
各編収録スル所主トシテ市町村、學校ノ報
告及廳内ノ調査ヨリ之ヲ得又往往關係官公
署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ蓋シ學
術ノ進歩世運ノ推移ニ因リ統計ノ用漸ク多
キヲ加フ故ニ材料益々正確調査愈精密ヲ期
サルヘカラス是ヲ以テ常ニ意ヲ注キ又新
載シ或ハ表象方法ヲ更メタルモノ鮮シ
ス然ルト雖尙未タ遺憾ナキヲ得ス此等
ヲ以テ改善シ其ノ需要ニ適應セシムル
ラムトス

昭和四年三月

福井縣知事官房

昭和二年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和二年又ハ昭和二年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ルモノハ昭和二年若ハ昭和二年度以前ノモノヲ掲ケタルモノア

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度何年末ト記スルモノハ其年十二月三十一日現在何年ト記スルハ翌年三月三十一日現在何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ

前數年ノ事項ヲ列載シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數一年間若ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルモノハ單位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用キテ圓位ニ止メタリ外國ノ度量衡ヲ用キタルモノアリ彼我ノ對照ヲ示セハ左ノ如シ

哩 (マイル) 十四町四十五間八寸三分五厘

噸 (ト ン) 二百七十貫九百五十四斤

鎖 (チェーン) 十一間三寸八分厘三四

耗 (ミリメートル) 三厘三毛

米突 (メートル) 三尺三寸

瓦 (グラム) 二匁六分七厘

昭和二年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

地 所

1	土地總段別	4
2	官有地	4
	民有有租地段別及地價	5
4	民有免租年期地種別	7
5	民有免租及無租地段別	7
6	民有、有租、無租地及耕地、不耕地段別	9

氣 象

7	測候所	9
8	氣壓氣溫及濕度	9
9	平均氣壓	10
10	平均氣溫度	10
11	平均濕度	11
12	平均雲量	11
13	降水日數及降水量	11
14	降雪日數及期節	12
15	快晴日數	12
16	曇天日數	12
17	暴風日數	13
18	結霜日數	13
19	最多風方位	13
20	風ノ速度	14
21	風ノ平均速度	14
22	沿海及河川流域雨量	14
23	地方暴風雨信號所	15
24	暴風雨標位置	15
25	測候用無線電信機	16
26	地震計	16
27	地震計ニ現ハレタル震動	16

戶 口

28	世帯及人口ノ一	17
29	世帯及人口ノ二(種類別)	17
30	配偶關係別人口(郡市別)	17
31	五歲階級年齡及配偶關係別人口(總數)	18
32	構成人員別普通世帯(郡市別)	18
33	推計人口	19
34	現在人口階級ニ分チタル市町村數及其人口	19
35	體性ニ分チタル本籍人口 及現在人口並現住戶數	20
36	人口動態總覽(現住地別)	20

37	男女及年齡階級別死亡(現住人)	21
38	男女及月別出生並死産(現住人)	21
39	男女及原因別死亡(中分類)(現住人)	21
40	年齡及身分別婚姻	22
41	夫妻相互ノ年齡別婚姻	23
42	夫妻相互ノ年齡別離婚	23
43	北海道移住者調	24

交通及通信

44	官設鐵道線路及敷地	25
45	官設鐵道運輸	26
46	私設鐵道	27
47	私設鐵道運輸	27
48	郵 便	29
49	電 報	30
50	電信線路里程及電柱	31
51	電話加入區域及加入者數	31
52	市外電話線路里程及電柱	32
53	市内電話線路里程及電柱	32
54	電話料收入	32
55	瓦 斯	33
56	瓦斯製造及消費	33
57	瓦斯火口數及料金	33
58	諸 車	33
59	海岸延長及港灣	34
60	港灣ノ狀況	34
61	燈 臺	34
62	浮 標	35
63	船 舶	35
64	港灣入港船舶ノ隻數及噸數	36
65	敦賀浦鹽斯德間汽船乘客人員	36

土 功

66	災害員數	37
67	災害損失價額	37
68	工事別土木費決算	38
69	工種別土木費決算	38

社寺及宗教

70	神社及神職	39
71	寺院及僧侶	39
72	天台宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	41
73	眞言宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	40

74 淨土宗教派別寺院及僧侶(郡市別).....42
 75 臨濟宗教派別寺院及僧侶(郡市別).....43
 76 眞宗教派別寺院及僧侶(郡市別).....42
 77 日蓮宗教派別寺院及僧侶(郡市別).....44

教育慈惠及褒賞

78 行旅病人.....44
 79 行旅死亡人.....44
 80 濟貧恤窮.....45
 81 感化院ノ一(組織、所在、職員、經費等).....45
 82 感化院ノ二(入院退院者年未現在).....45
 83 感化院ノ三(身分年齡及保護者關係).....46
 84 感化院ノ四(改換退院者ノ在院期間及方途).....46
 85 救濟事業ノ一(育兒).....46
 86 救濟事業ノ二(施業救濟).....47
 87 救濟事業ノ三(幼兒保育).....48
 87 救濟事業ノ四(窮民救助).....49
 89 救濟事業ノ五(職業紹介).....49
 90 救濟事業ノ六(盲啞教育).....49
 91 救濟事業ノ七(貧兒教育).....50
 92 救濟事業ノ八(藝娼妓教育).....51
 93 救濟事業ノ九(免囚保護).....51
 94 救濟事業ノ十(宿泊救護).....51
 95 軍事救護.....52
 96 恩賜財團濟生會.....52
 97 篤行奇特者.....52

兵 事

98 壯丁教育程度別.....54
 99 壯丁體格検査.....54
 100 壯丁身長及体重最高最低.....55
 101 海軍志願兵.....55
 102 日本赤十字社員及年酬金.....56
 103 日本赤十字社職員.....56
 104 愛國婦人會.....57

議 會

105 貴族院多額納稅議員互選者.....58
 106 衆議院議員選舉.....60
 107 縣會議員選舉.....60
 108 縣會及縣參事會.....61
 109 市會議員選舉.....61
 110 市會及市參事會.....61
 111 町村會.....61

官 公 吏

112 縣廳各部分課.....63
 113 縣職員(課別).....62

114 休職官吏及吏員職員.....64
 115 市吏員.....65
 116 町村吏員.....66

財 政

117 縣都市町村水利土功組合歳入出.....67
 118 直接稅負擔(決算).....68
 119 國 稅.....68
 120 地 租.....69
 121 所得稅.....70
 122 家督相續稅.....72
 123 遺產相續稅.....74
 124 醬油稅.....76
 125 第三種所得稅決定額種別.....76
 126 織物消費稅.....78
 127 營業收益稅.....78
 128 酒造稅.....80
 129 國稅滯納人員及金額.....82
 130 租稅外國庫收入.....82
 131 國庫支出縣經費.....84
 132 縣歳入.....86
 133 縣歳出.....86
 134 縣 稅.....88
 135 縣稅滯納處分.....89
 136 特別會計ニ屬スル縣歳入歳出.....90
 137 福井市歳入.....90
 138 福井市歳出.....91
 139 福井市稅.....92
 140 福井市瓦斯事業費歳入.....92
 141 福井市瓦斯事業費歳出.....92
 142 福井市水道布設費歳入.....93
 143 福井市水道布設費歳出.....94
 144 町村歳入.....94
 145 町村歳出.....96
 146 町村稅.....98
 147 市町村稅滯納處分.....98
 148 普通水利組合歳入.....100
 149 普通水利組合歳出.....101
 150 水害豫防組合歳入.....100
 151 水害豫防組合歳出.....101
 152 縣有財產ノ一.....102
 153 縣有財產ノ二.....103
 154 縣有財產ノ三.....103
 155 福井市基本財產.....104
 156 町村基本財產.....104

其 ノ 他

157 令達發布件數.....104
 158 收受發送文書件數.....105

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終ル。東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ、西ハ東經百三十五度二十五分十七秒ニ終ル。北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ、西南ハ京都府、滋賀縣ニ面ス、北ハ日本海ヲ控ヘ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦鹽ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ圍ラシ中央ニ越前平野アリテ一大盆地ヲナス、東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈トナリ、重疊起伏シテ國境ヲ限ル國ノ東南ニ走ルモノハ大日、油坂、龜嶺子、荒島、冠嶽ノ諸峰トナリテ極メテ急峻ナリ、一脈ハ國ノ中央ヲ走り稍低クシテ經ケ嶽、兜山、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈鏡、劍ヶ嶽等ノ諸山トナル又國ノ西方ヲ繞ル一脈アリテ國見、鷹巢、越知ノ諸山トナリテ日本海ヲ限ル故ニ越前海岸ハ山嶽海ニ迫リテ平地ヲ見ズ、河川ハ大抵東南ノ山間ヨリ發シ九頭龍、足羽、日野ノ三川トナリテ西北流シ三國港ニ入ル、其ノ間灌溉ノ便宜シク夏季旱魃ノ害ヲ蒙ルコト稀ナリ、故ニ土地肥沃ニシテ五穀豐饒シ縣民ノ生活ツテ容易ナリ、若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ、南方ハ峰巒ヲ以テ國境ヲ限リ北方ニ傾斜シテ海ニ至ル、其ノ間高峻ナルモノハ三十三間山、多大山、後瀬山、青葉山等アリ、國ノ幅員狹クシテ大ナル耕地ニ乏シク從ツテ水田ハ割合ニ收穫高少ク茲ニ以テ桑葉ヲ栽培シ蠶蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

廣 袤

總面積ハ二百六十方里餘ヲ有シ、廣袤全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狹ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ、然レトモ本縣ハ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ、廣袤ノ割合ニハ利用面積多シ、之ヲ郡市別ニ觀ルトキハ最大ナルモノハ大野郡八十四方里ニシテ之ニ亞クハ遠敷郡ノ二十六方里、坂井郡ノ二十五方里、今立郡丹生郡ノ二十二方里、南條郡ノ二十一方里、三方郡ノ十七方里、敦賀郡ノ十一方里ニシテ最少ナルハ足羽郡、吉田郡、大飯郡ノ九方里ニシテ福井市ハ僅ニ三分方里ニ過ギズ。

土 地

本縣土地總段別ハ二十三萬五千七百三十四町九段ナリ、内國有地ハ五千四百三十四町三段、民有地二十三萬三百町六段ナリ。民有地ノ内宥租地ハ十八萬一千六百四十二町四段ニシテ七割九

分ニ當ル、免租及年期地ハ四萬八千六百五十八町二段ナリ、國有地ハ山林四千七百六十二町六段、官公署其ノ他ノ敷地六百七十一町七段ノミナリ、免租地ハ保安林四萬六千四百三十八町八段社寺地百五十町、官公署及其ノ他ノ敷地十六町九段、墳墓地百八十一町六段、其ノ他ノ土地千二百九十九町一段等ナリ、年期地ハ田及其ノ他ニ五百七十一町八段アリ。

氣 象

本縣ハ東南山嶽重疊連亘シ西北ハ日本海ニ面スルガ故ニ常ニ大陸ヨリ海上ノ濕氣ヲ含ミテ來襲スルヲ以テ年中濕氣ニ富ムテ常トス、殊ニ冬季ハ積雪多ク各種産業上ニ影響スル處多シ、昭和二年ノ十二月ノ濕度ハ八十六度ニシテ年中平均八十二度ナリ、氣温ノ最高ハ七月ニシテ三十六度五分最低ハ十二月ニシテ零下四度四分ナリ、年中ノ平均温度ハ十三度三分ナリ、降水日數ハ一月最モ多クシテ二十四日、二月、十二月ハ何レモ二十三日等ナリ、全年降水日數ハ二百四日ニシテ殆ント三分ノ二ハ雨天ナリ降水量モ一月、二月、十二月最モ多ク三百耗以上ニ達ス、一年間二千五百三十二耗二分ナリ、又昭和二年ノ初雪ハ十二月九日ニ來リ終雪ハ昭和三年三月二十二日ナルガ故ニ此ノ降雪期間百餘日ニ及ビ最深積雪實ニ六尺九寸餘ニ及ヘリ、快晴日數ハ二十八日、曇天日數ハ百九十六日、暴風日數六日、結霜日數五十二日等ナリ。(福井測候所ニ依ル)

戶 口

世帯及人口 本縣一市十一郡ノ世帯總數ハ十二萬四千九百九十六、人口ハ五十九萬五千二百三十三人アリ、而シテ福井市ノ世帯ハ一萬四千九十四、人口ハ五萬九千九百四十三人ナルヲ以テ世帯及人口ノ約一割ハ市部ニ他ハ郡部ニアリ、人口ノ密度ハ一方里二千二百九十八人ニシテ全國平均一方里二千四百十七人ヨリモ精疎ナリ、福井市ハ特別トシテ各郡中密度ノ最モ高キハ吉田ノ四千九百四十八、坂井四千七百十七、足羽三千九百四十八、之ヲ亞ギ丹生、敦賀、遠敷、大飯ノ四郡ハ二千人以上、大野、今立、南條、三方ノ四郡ハ何レモ千人以上ナリ、總人口中男二十九萬二千六百八十八人女三十萬四千八百五十五人ニシテ女百人ニ付男九十五人ニ當ル、全國平均ハ女百人ニ付男百二人三分ナルニ本縣ハ男ノ割合少キハ纖維工業地ノ故ナラン本縣ノ世帯總數中普通世帯十二萬四千九百九十六、之ニ屬スル人員五十八萬七千七十八人準世帯七百七十、之ニ屬スル人員八千五百五人ニシテ普通世帯及同人口ハ總數ノ九割九分ヲ占ム而シテ一世帯平均人員ハ普通世帯四人七分準世帯ハ二十三人五分一厘、兩者ヲ通シテ四人七分三厘トナル。

配偶關係 總人口五十九万五千二百二十三人中未婚者ハ略其ノ半ヲ占メ二十九万二千四百五十七人アリ、有配偶者之ニ亞ギ二十四万二千二百五十八人ヲ算シ總人口ノ四割一分ニ當リ、死別者五万三千二百六十六人、離別者七千三百八十二人ナリ。而シテ各郡男女ノ割合ヲ觀ルニ未婚ニ於テ男多ク他ノ三者ハ孰レモ女多ク殊ニ死別ニ於テ男ニ三倍シ離別ニ於テ約二倍ス、次ニ可婚年齢ト見做スヘキ十五歳以上ノ者三十七万三千二百二十一人ノ配偶關係ヲ觀ルニ未婚七万五百八十九人、有配偶二十四万二千二百五十八人、死別五万三千二百六十六人、離別七千三百八十二人ニシテ未婚一人既婚四人ノ割合ナリ、更ニ之ヲ男女別ニ觀ルトキハ男ハ未婚一人既婚三人、女ハ未婚一人、既婚六人トナル以上ハ大正十四年國勢調査ノ結果ナルモ之ヲ大正九年ノ國勢調査ノ結果ニ比スレバ普通世帯ニ於テ八百九十三年増タルモ準世帯ニ於テ十五ヲ減シ人口ニ於テ千六百人ヲ減シタルノ外人口ノ密度一世帯ノ平均人員及配偶關係ノ構成等ニ於テハ殆ント前回同様ノ現象ナリ。

人口動態

昭和二年中ノ婚姻ハ五千四百六十人、離婚六百十二人ニシテ生出ハ男一万七百八十八人、女一万百六十二人、計二万八百七十七人ナルガ故ニ男ハ女ヨリモ五百四十六人多ク生産シタリ、同年中死亡セルモノ男七千五百五十一人、女八千七十七人、計一万五千六百二十八人ナリ、出生、死亡ノ差引五千二百四十二人ノ増加ナリ、前年ニ比シ千三百七人ノ増加ヲ示ス最近十ヶ年平均年五千四百四十二人ノ増加ナリ。

原因別死亡

昭和二年中ノ總死亡一万五千六百二十八人中高率ナルハ千人中下痢及腸炎百七十二人三分、次ハ肺炎及氣管支肺炎ノ八十四人七分、次ハ老衰七十三人一分、妊娠及産ニ關スル疾患七十一人三分、肺結核六十人三分等ニシテ特ニ肺結核患者ノ多キハ世人ニ注目セラル、處ナリ。

交 通

交通ノ狀況ハ國道府縣道ノ總延長四百五十九里餘ニシテ、面積ニ比シ尠シトモザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部ハ險路峻坂ニシテ幅員狹少ナルヲ以テ毎年比較的多額ノ經費ヲ投シ之カ改良ニ努ム、殊ニ昭和三年ヨリ六ヶ年繼續事業トシテ六百十三万九千六百九十五圓ヲ投シ縣下各地ニ産業道路開鑿ヲ計劃セリ鐵道ハ總延長百六十五哩ニ達シ北陸本線、小濱線及三國線ノ外七ノ私設鐵道アリ更ニ計劃中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見バ交通運輸上裨益スル所多カラシ。

諸車 交通運輸ノ便ヲ償フ諸車ハ昭和二年末現在ニ於テ總計七万七百三十九臺アリ、内馬車千四百四十、牛車百五十九、荷車二万七千九百五十四、人力車五百二十六、自轉車三万九千五

百一、自動車三百八十、其他ノ車千七十九臺アリ、右ノ内急進的ニ増加スルハ自轉車ニシテ漸次増加ヲ示スハ自動車ナルモ年々衰微スルハ人力車ナリ。

社 寺 及 宗 教

神社及神職 昭和三年末本縣ノ神社總數ハ千六百八十四社、神職百七十七人アリ、内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十四、郷社四十八、村社千二百七十、無格社三百三十六アリ。

寺院及僧侶 本縣ハ宗教盛ニシテ寺院僧侶最モ多ク、昭和二年末寺院總數千六百五十七、僧侶千六百七十八人アリテ寺院一ニ付世帯數七十五ニ當ル、本縣ニ在ル宗教中最モ多キ寺院ハ眞宗ニシテ八百七十四ニ達シ縣下寺院其ノ半ヲ占メ次ク曹洞宗二百七十二、日蓮宗百三十三、天台宗百十一、淨土宗百、臨濟宗八十三、眞言宗六十二、時宗二十、黃檗宗二等ナリ。

兵 事

昭和三年ノ壯丁体格検査人員ハ總數六千九百四十四人ニシテ内甲種千六百六十八人、全數ノ二割七分、第一乙種四百五十六人ニシテ七分四厘、第二乙種千三百六十二人ニシテ二割二分、丙種二千六百六十八人、丁種四百二十六人、戊種十四人以上併セテ四割三分トナル前年ニ比シ甲種及第一乙種ニ於テ著シク減少セリ、教育程度ニ於テハ高等學校卒業以上ノモノ二十人、中學卒業以上ノモノ六百四十三人、高等小學校卒業以上ノ者三千五百八十八人、尋常小學校卒業以上ノモノ千九百三十九人、尋常未卒業及不就學者四百四十四人ニシテ高等學校卒業、中學卒業者ニ於テ減少シ高等小學校卒業者ニ於テ稍増加シ又尋常小學校卒業及尋常未卒業及不就學者ニ於テ減少セリ、身長ハ最高六尺三寸、最低四尺九分、体重ハ最重二十二貫六百、最輕七貫三百匁ヲ示ス。

官 公 吏

縣 職 員 昭和三年九月一日現在ノ本縣職員ハ千二百六十四人ニシテ其ノ俸給年額七十七万九百圓トナル内勅任一人奏任二十二人、同待遇三十人、判任百四十六人、同待遇六百七十五人、縣吏員百五十九人、雇員二百十四人、囑託十七人等ナリ。

市 吏 員 市長、助役、收入役各一人、主事一人、技師四人、書記五十六人、技手十七人、其ノ他二十九人、合計百十人ニシテ之ノ俸給年額八万二千三百二十二圓トナル。

町村吏員 町村長百六十七人、助役百二十九人、收入役百六十一人、常設委員六百一十一人、區長二千五十六人、區長代理者二千二十三人、書記六百八十五人、事務雇七十八人、技術員二十七人、其ノ他三人、合計五千九百四十人トナルモ内名譽職員ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十七万六千八百十三圓トナル。

財 政

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過キサリシガ、日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來シ明治二十九年度ニ至リテハ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修事業ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シタリ、茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルノ要ニ迫リ、明治三十五年度及同三十六年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ其ノ後戰後ノ經營ト時運ノ進歩ニ伴ヒ財政ノ膨脹ヲ來シ、加フルニ郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來シ縣費ハ愈々急脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ方針ヲ依テ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ繼續事業ニシテ已ムテ得サルモノ等アルニ依リ昭和三年度豫算六百三十九萬六千六百五十四圓ニ上ルニ至レリ前年度豫算ニ比シ百二十三萬四千四百九十二圓ヲ増加シ大正八年度ノ決算ヨリ三百十萬圓即チ約二倍ノ増加ナリ。

市町村財政ノ狀況ヲ觀ルニ昭和三年度豫算ニ於テ市費八十一萬九千七百七十圓町村費五百七十五萬八千四百八十六圓ニシテ、之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治三十三年度ニ比スレハ市町村ヲ通シテ實ニ二十倍ニ達セリ、縣ハ不斷緊縮方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會進運ニ伴ヒ教育、土木、産業、其ノ他各般ノ施設ニ依リ自然膨脹ヲ餘儀ナクセシメタルニ外ナラズ、而シテ昭和二年度ノ本縣直接國稅負擔額ハ二百四十五萬八千八百四十七圓一戶當十九圓六十七錢、縣稅總額三百三十七萬五千五百二十四圓一戶當二十七圓一錢、市町村稅三百七十萬六千二百九十一圓一戶當二十九圓六十五錢ノ負擔トナルモ直接國稅ハ比較的少キカ故ニ其ノ負擔額モ各稅中ノ低位ニアリ。

港 灣

【敦 賀 港】

港灣ノ修築

本港ハ大正二年港灣改良工事竣成後更ニ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ルハケ年ノ繼續事業ニテ港灣修築計劃成リ國費三百四十萬圓ヲ以テ大正十一年九月十四日之レガ起工式ヲ舉行セリ、然ルニ大正十三年政府ノ都合ニヨリ一ケ年繰延昭和五年度ニ於テ竣工ノ豫定ニシテ目下工事中ナリ而シテ本計劃ハ新ニ延長三百二十三間ノ繫船岸壁ト約九十間ノ護岸トヲ得ルモノニシテ之カ竣工ノ曉ニハ一ケ年約五十萬噸ノ貨物ヲ取扱ヒ得ヘシ。

水深ノ變化

港内廣濶ニシテ水極メテ深ク暗礁砂洲等障礙物ニ乏シク隨ツテ大船巨艦ト雖運航自在且ツ繫碇安全ナリ船舶ノ集合地點ハ

陸岸ヨリ二百米突乃至二百七十米突ニシテ潮位及潮流ハ零位ヨリ二尺迄ヲ最高トス。

港灣ノ消長

敦賀港ハ古來江州濃美並ニ近畿地方ト水陸連絡ノ要港タルノミナラス北海道ニ對スル輸出入貨物ノ集散港トシテ夙ニ世ニ知ラレタリ、且ツ地理ノ關係上對外的ニハ遠ク神功皇后三韓出師ノ當時其ノ策源地タリシ所ナリ、其ノ後或ハ外國使臣來朝ノ應接地トナリ又ハ政事軍事上ノ中心トナリシ歴史ヲ有ス故ニ維新以後政府ハ本港ノ開發ニ意ヲ用ヒ明治十四年灣口ニ燈臺ヲ新設シテ航路ノ安全ヲ計リ又明治十七年敦賀長濱間ノ鐵道ヲ布設シテ近畿地方トノ交通ヲ便ナラシメ續テ明治二十九年十月當港ヲ特別輸出港ト指定シ同三十二年七月開港令ノ公布セラルルヤ當港ヲモ亦其ノ一ニ加ヘタリ、其ノ後西伯利亞鐵道ノ全通スルニ及ヒテ歐人ノ東洋ニ來ラムトスルモノ多クハ此ノ便ニ依ルヲ以テ旅客ノ往來日ヲ追フテ頻繁トナリ貨物集散モ隨テ増加スルニ至レリ、爾來政府ハ本港修築ノ必要ヲ感スルニ至リテ第二十五議會ノ協賛ヲ經テ明治四十二年以降四ケ年ノ繼續事業トシテ工費金八十萬圓ヲ以テ第一期修築工事ヲ起シ該工事ハ大正二年度ニ於テ竣功セシモ間モナク歐洲戰爭勃發シタル結果本港ハ我國ニ於ケル軍事上將又經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リシノミナラズ貨物激增シ第一期ノ修築工事ノミニテハ設備ノ不足ヲ告クルニ至レルヲ以テ更ニ第二期修築工事ノ必要ヲ認メ第四十五議會ノ協賛ヲ經テ更ニ大正十一年度ヨリ之レカ工事ヲ起スニ至レルモ大正十二年九月一日ノ關東地方震災ノタメハケ年繼續事業ヲ一ケ年延期セラル、ノ止ムナキニ至レリ。歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頽ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ尙當港ヨリ輸出スル重ナルモノハ雜貨及繩纜類トス、雜貨ハ鐵道便ニヨリ京阪地方ヨリ輸送シ來リ北海道、北鮮(元山、城津、清津方面)露領、亞細亞及支那方面ニ繩、纜類ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノ及郡内産ヲ併セ北海道方面ニ輸出セラル。輸入ノ重ナルモノ、内石炭ハ北海道及九州ヨリ輸入シ多クハ鐵道用炭トシテ其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消化スルモノトス尙豆粕、雜穀、鹽乾魚、魚肥類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ縣内ハ勿論近江、京阪神及名古屋中央線一圓ニ輸出セラルル狀況ニアリ。

